

第4期第5、6回詳報

# 教訓熱意で未来に

## 当事者に取り組み学ぶ

311  
伝える／備える  
次世代塾

東日本大震災の伝承と防災啓発の担い手育成を目指し、河北新報社などが運営する通年講座「311『伝える／備える』次世代塾」第4期は9月、第5回講座を見聞74人と教職員10人が犠牲になった石巻市の旧大川小からオンライン中継したほか、被災者の心のケアをテーマに第6回講座をウェブ配信した。

第5回講座は大川伝承の会共同代表で、津波で6年生の次女みずほさん(当時12)を亡くした佐藤敏郎さん(57)が講師を務めた。校舎の前などで、児童たちが校庭を駆け回ったり、中庭で一輪車に乗ったりし

たかつての学校の様子を紹介。地震発生直後、しばらく校庭に待機し、児童らの避難開始が遅れたことや、裏山に登れば助かる可能性があったことも説明した。

海トラフ巨大地震に教職員はどう備えるべきかを質問。佐藤さんは「避難のスタートが問題になる。逃げる判断、逃げる方向を事前



旧大川小の校舎の前で、スマートフォンに向けて震災前の光景を語る佐藤さん

に決めて教職員が共有し、警報が出たらすぐに逃げられるようにしてほしい」と答えた。

第6回講座は、遺族の心のケアに取り組み「東松島子どもグリーンサポート」代表理事の菅原節郎さん(70)が講義をした。震災発生直後、自宅があった東松島市野蒜は大津波

メモ 311「伝える／備える」次世代塾を運営する推進協議会の構成団体は次の通り。河北新報社、東北福祉大仙台市、東北大、宮城教育大、東北学院大、東北工大、宮城学院女工大、尚絅学院大、仙台白百合女子大、宮城大、仙台大、学都仙台コンソーシアム、日本損害保険協会、みちのく創生支援機構。

### 受講生の声

#### 子どもの命を守る

旧大川小の出来事から、災害が日常を突然奪うこと、自分や大切な人々を考え、備えなければいけないことを学びました。将来、教師を目指しています。佐藤敏郎さんの言葉にあった、防災で子どもの命を守り、ハッピーエンドの未来を実現できるようにしたいです。

(一関市・宮城教育大1年 村上真悠さん・18歳)

#### 自分事と捉える

佐藤敏郎さんの話を聞き、震災で亡くなった一人一人の身に何が起きたのか、知ろうとすることを止めてはならないと感じました。遺族の思いを知ること、犠牲を二度と繰り返さない防災への強い意志につながるはず。震災を自分事と捉えて発信します。

(弘前市・弘前大2年・佐々木友喜さん・20歳)

